



めざそう！食肉の安全・安心！！

# 検査所だより

2026.3 (vol.84)

宮城県食肉衛生検査所

仙台・宮城観光PRキャラクター むすび丸

開かれた食肉衛生検査所へ！ 私たちは食肉衛生検査情報の還元を推進し、開かれた食肉衛生検査所を目指しています。生産者の方も食肉関連事業者の方も気軽に当所をご利用ください。

## 令和7年度業績発表会を開催しました

令和7年2月20日に「令和7年度宮城県食肉衛生検査所業績発表会」を開催しました。今年度も現地参集形式で開催し、各関係機関から28名の方々にご参加いただきました。

当日は、食肉の安全上問題となる病原微生物の保有状況調査や、残留動物用医薬品の検査法、病理学的な検討等9題の演題について発表を行いました。発表会では、各演題ごとに活発な討議が交わされ、貴重な知見を共有する有意義なものとなりました。

なお、発表抄録については、近々当所ホームページに掲載する予定です。



業績発表会の様子

### 発表演題

- (1) 豚におけるEscherichia albertiiの保菌状況調査
- (2) 豚におけるカンピロバクターおよびサルモネラ属菌の保有状況調査
- (3) 鶏の腹腔内にみられた肉芽腫性炎の一例
- (4) 動物用医薬品一斉分析法の改良の検討
- (5) 豚の脂肪における動物用医薬品一斉分析法の検討
- (6) LC-MS/MSにおけるアミノグリコシド系抗生物質の分析法の検討
- (7) 悪性黒色腫が認められた豚の3症例について
- (8) 豚の心臓にみられた腫瘍について
- (9) 豚腸炎における肉眼所見とサイトカイン遺伝子発現量の関係

山木所長開会の挨拶(抄)

本日はお忙しい中、当所の業績発表会にご参加いただきありがとうございます。

食肉衛生検査所の使命は、地域の皆さまに安全で安心な食肉を届けるため、科学的根拠に基づく検査と衛生管理を確実に実施することにあります。近年、食肉を取り巻く環境は大きく変化し、疾病の動向や衛生基準の高度化など、求められる対応は一層複雑化しています。とりわけ、原則すべての食品事業者に義務付けられた「HACCP」に沿った衛生管理への確実な対応や、その妥当性などを確認する外部検証の重要性は増しています。また、高病原性鳥インフルエンザや豚熱など重大な家畜疾病が全国的に発生しており、迅速で正確な検査体制の維持が不可欠です。と畜場や食鳥処理場は家畜集合施設であることから、疾病侵入・拡大防止対策については、引き続き関係機関・団体と緊密に連携しながら取り組んでまいります。

本日は、日頃の調査研究の中から、食肉の安全上問題となる疾病や残留抗菌性物質に関する課題など、9つの演題が発表されます。職員が積み重ねてきた成果を共有するとともに、皆さまからの忌憚のないご意見やご助言を頂き、今後の業務改善に生かしてまいります。

食肉衛生の確保は、生産から流通、消費に至るまで、各段階での衛生管理と情報共有が不可欠です。引き続き関係団体の皆さまと連携し、地域全体で食の安全を支える体制づくりに努めてまいります。



# 『動物の命や働いている人にも感謝してお肉を食べたい！』オープン・ラボ開催！！

県民の皆様へ、食肉の安全安心の確保に向けた当所の業務について『もっと知ってほしい！』という思いから、「オープン・ラボ」を開催しています。

今年度は、東北医科薬科大学19名、農業大学校5名の皆様が参加されました。内容は、食肉衛生検査所の仕事紹介の講義の他、検査所内やと畜場内を見学していただきました。生徒さんからは『将来畜産に携わる側として、と畜を見ることができてよかった！』という感想や、『動物の命や働いている人にも感謝してお肉を食べたい！』等の感想が聞かれました。

食肉衛生検査所では、これからも当所の取組みや食肉の安全性について県民の皆様にも知ってもらうことができるように、オープン・ラボ事業の他、インターンシップ、みやぎ出前講座等の活発な情報発信を行っていきたいと思います。



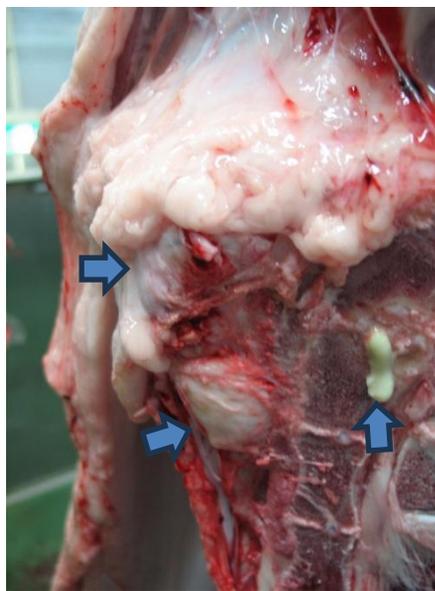
食肉衛生検査所の仕事紹介の様子

## と畜検査疾病コラム～「膿毒症」

膿毒症は、と畜検査においてしばしばみられる疾病の一つで、当所では敗血症の次に廃棄頭数の多い疾病です。「化膿菌が血管またはリンパ管などに侵入して中毒症状を呈したり、あるいは塞栓性（転移性）に化膿巣を生じた場合」と定義されています。

と畜検査においては、解体検査で複数の高度な膿瘍を認めた場合等に本症を疑い、本症の精密検査を実施することとなります。一部のみの膿瘍であれば当該部位のみの廃棄となりますが、2カ所以上の臓器、筋肉にまたがって高度な膿瘍が認められた場合等は、本症と判定され、「全部廃棄」となります。

本症は尾かじりによる発生がよく知られていますが、化膿菌の感染に起因することから、体表、肺、泌尿器等、様々な感染経路による発生があります。膿毒症を予防するためには敗血症と同様に、農場における飼養環境の改良・衛生的な管理が重要であると考えられます。



枝肉に見られた高度の膿瘍

### 宮城県食肉衛生検査所

〒987-0311

宮城県登米市米山町字桜岡今泉314

電話：0220-55-3752

ファックス：0220-55-4105

電子メール：[shmeat@pref.miyagi.lg.jp](mailto:shmeat@pref.miyagi.lg.jp)

(参考) 令和6年度検査実績  
膿毒症 全部廃棄頭数 37頭  
敗血症 全部廃棄頭数 79頭

当所のホームページはこちらから

